

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	学校法人常盤学園 子どもの森療育センター			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 30日		～	2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数)	27名
○従業員評価実施期間	2026年 2月 13日		～	2026年 2月 20日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 30日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	相談対応と保護者支援の充実	保護者からの相談に対し、日常的なやり取りに加えて必要に応じて面談の機会を設け、丁寧に対応している。お子様の様子や家庭環境の変化にも気づきやすく、保護者が安心して相談できる関係づくりができています。	今後も日頃の情報共有を大切に、小さな変化や不安も気軽に相談できる体制を維持・強化していく。
2	支援内容の工夫と専門性の向上	運動、机上課題、制作、ゲーム、SST等を組み合わせ、お子様が楽しみながら目標に取り組める支援プログラムを提供している。個々の特性や発達段階に応じた支援を行っており、継続して通所を楽しみにしている様子が見られる。	職員研修や情報共有を通して専門性の向上を図り、支援内容の質をさらに高めていく。

3	関係機関との連携と情報共有	在籍園や関係機関と連携し、集団生活での様子や支援方法について情報共有を行っている。園での様子を踏まえた支援を行うことで、一貫性のある支援につながっている。	今後も在籍園や関係機関との連携を継続し、必要に応じて支援方法の検討や情報交換を行っていく。
---	---------------	---	---

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物の構造上、バリアフリー化が十分ではない箇所があり、利用児や保護者の多様なニーズに十分応えきれていない部分がある。	既存施設を活用しているため、構造的な制約があることが要因となっている。	安全面に配慮しながら、動線の工夫や環境整備を段階的に進め、安心して利用できる環境づくりに努めていく。
2	事故防止マニュアルや緊急時対応マニュアル、防犯・感染症対応マニュアル等について、保護者への十分な周知が行き届いていない。	マニュアルは整備されているものの、周知方法や伝達の機会が限られていたことが要因である。	職員研修を継続するとともに、掲示やホームページへの掲載等を通じて、保護者への情報提供と周知を進めていく。
3	きょうだい参加・交流できるイベントの実施が十分に行えていない。	日常支援を優先してきたことや、企画・運営体制が十分に整っていなかったことが要因である。	利用者・保護者・卒業生・きょうだい・地域の方も含めた交流の機会を検討し、無理のない形でイベントの実施を進めていく。